

---

# Lion in the cage

ひとばしら

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

Lion in the cage

### 【NZード】

N1839M

### 【作者名】

ひとりじり

### 【あらすじ】

どこにでも居そうな14才の中学生「黒乃 修斗」。  
成績も周りと大して変わらない、平凡な中学生。

そんな彼の趣味は天体観測。

夏休みのある日…。

いつもの場所で星を見ていると…。

## Lion in the cage

ひとばしりです。

まず最初に幾つか言つておきます。

作者は一度も小説を書いたことがないです。

初めてなのでいろいろ変なところがあるかもしません。

それでも読もう、という方は是非楽しくください。

また、読まれた方は感想を書いてくれるとありがたいです。  
感想を元にいろいろ工夫をしようと思います。

皆さんよろしくお願ひします m(—\_—)m

基本的に一次創作です。

キャラクターも一次創作がメイン。

所々オリジナルが混ざります。

(主人公はオリジナルです。)

そんな程度です。

## 第一話・終わつと始まつ（前書き）

第一話です。

どうぞ見て行ってください。

## 第一話・終わつと始まつ

「……」

修斗は寝ている。

すると何か聞こえてきた。

「……る」

よく聞こえない。

「……あら」

何を言いたいのだろうか。

「起きるー。」

突然の大声に目が覚める。

「うるさいなあ…。もう少し静かに起こしてよ」

目の前にいたのは母親だった。

カーテンから光が見える。朝がきたようだ。

「ここまで寝てるの！ 遅刻するわよー！」

時計を見ると、もうそろそろ8時になる頃だった。  
いつもならもう学校に行っている時間。

「ヤバ…、急がないと遅刻…！」

急いで学校に行く準備をする。  
朝食をとる時間もない。

「行つてきまー！」

慌ただしく家を出て行く。

「ふう……」母はため息をつく。

いつものことだけせっぱり疲れ。

もつらじむとりを持つてほしー。…と母は思つ。

「さて……と、どうするかな、これから」

そう呟きながら居間へ向かつ。

いつもと変わらない一日。

一方、修斗は……、

結局、遅刻した。

着いた頃には9時を過ぎていた。

休み時間になつて……

「珍しいな、お前が遅刻するなんて」

友人である高野 朱璃が話しかけてきた。

ちなみにオタクである。

東方Projectってゲームが好きらしい。

：俺にはよくわからない。

「何があつたのか？」

朱璃が尋ねる。

「いや、何も…寝坊しただけ」

「…そつか。ならいいんだけど」

心配してくるのもいつものこと。  
心配性なんだろうな。

結局、いつもと変わらない1日だった。

今日も星を見に行こう。

でも、この後、あんなことがあるなんて思いもしなかった。

## 第一話・終わつて始まつ（後書き）

どうでしたか？

こんな感じで最初は進めていくつもりです。

余裕があれば番外編も書いてみようかな、と思っています。

では改めてよろしくお願いします。

## 第一話・終わつとその後（前書き）

第一話です。

どうぞ見て行ってください。

## 第一話・終わつとその後

PM 8:00...

望遠鏡を持って出掛けた。

「あー、イマイチ星見えない……今日晴れてたのになあ……」

そのときの空模様はかなり悪かった。  
空がほぼ真っ黒だった。

「仕方ない……始めようか」

独り言を言いながら望遠鏡の準備に取り掛かる。

「…？」

一瞬、空が光って見えた。

気付けば空に流星群が現れていた。

「うわあ……すばらしい……」

思わず見とれてしまひ。

そのとおり、

空から何かが落ちてくるのに気がついた。

「…え？」

「…」に向かって落ちてくる。

それは…

巨大な隕石だつた…。

…………

その後

(修斗)

何が起きたかはわからない。

ただ、俺はふわふわと浮いていた。

何も見えない。

周りがとてもなく騒がしい。

「……うるさい……」

誰も反応してくれない。  
更に騒がしくなる。

「なあ……聞いてくれよ……」

誰も反応してくれない。

誰かが泣いている。

……なんで?

なんで泣くの?  
話聞いてくれよ……。

……何も見えない。  
……何も聞こえない。

ビニビン下に落ちて行く。

何も分からぬまま……。

(朱璃)

「……ウソだろ……え?」

ニュースの速報で朱璃が見たのは、修斗がいつも天体観測をしていた丘だった。

そこで人が死んだ。

原因は隕石の衝突によるものだった。

そして、テレビに出てきた名前にはいつも書かれていた。

死  
亡  
者  
黒  
野  
修  
斗  
一  
五  
歳

涙が止まらない。

次から次へと溢れて流れしていく涙。

しばらくして、急に意識が遠退いた。

全く動かぬ！

そのまま、僕は意識を失った。

(修斗)

突然、何かが聞こえた。

「目を開けなさい」

言われた通りにする。

逆らってはいけない気がしたからだ。

すると…

田の前には、一人の少女が立っていた。

「おめでとう」

「…え？」

突然のことでは思わず変な声を出してしまった。

「あなた…運がいいみたいね、ここにたどり着くなんて」

何が何だか分からぬ。

「…誰？」

素朴な疑問が頭に浮かんだ。

「あつ、『じめんなさい。忘れてたわ。私の名前はエリス、エリス・  
ドールズ。』

「よ…よひしべ」

少しきこられないが挨拶しておいた。

「ええ、よひしべ」

ほほえみながら返してくれた。

「おお、話がそれるところだつたわ。まず最初に聞くけど、あなた…幻想郷つて知ってる?」

「いいえ、知らないです。」

「敬語使わなくともいいよ。…そーなのかー、知らないのか…」

何か呟いている。

「ええと、何か悪かつた?」

「いいえ、知らないなら知らないでいいわ。話を続けるわ」

そう言つと彼女は真剣な顔になる。

「单刀直入に言つね。あなた…一度生き返ることが出来るわよ」

…え?

死んでたのか、俺は?

…ウソだろ?

「本当の話よ」

心を見透かされた。

かなり驚いた。

「あなたが生き返ることが出来る世界が幻想郷。でも今のあなたはそこでは生き延びられない。」

すく熱心に話し出す。

正直聞いているのが面倒になる。

「そこあなたに能力を授けるわ、それ！」

掛け声と共に光が俺の周囲に集まってくる。

「さあ、準備OKよ、ほら、行ついらっしゃい」

「え？ ちよつとまつ……」

急に周りが真っ暗になる。  
それと同時に意識が薄れていいく。

「何なん……だよお……」

俺は倒れた。

…何が起きた?  
全くわからない。  
…体に力が入らない。

動くこともできなかつた。

## 第一話・終わつとその後（後書き）

第一話終わりです。

これからのは東方Projectの一次創作になります。

楽しんでいただければ幸いです。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1839m/>

Lion in the cage

2010年10月9日21時45分発行